

血液の話題(1)

(医療に関する意識調査)

医療法人 幸良会 シーピーシークリニック
武元良整

医療に対する一般の方の関心は高くなってきているのでしょうか？

そして、情報開示に協力的な医師は増えてきているのでしょうか？

私は血液病の講義や講演の機会に2002年から2004年にかけて以下の10項目のアンケートを定期的に行い、意識の変化を探ってきました。少数意見としてご理解ください。

以下の10項目について質問しました。

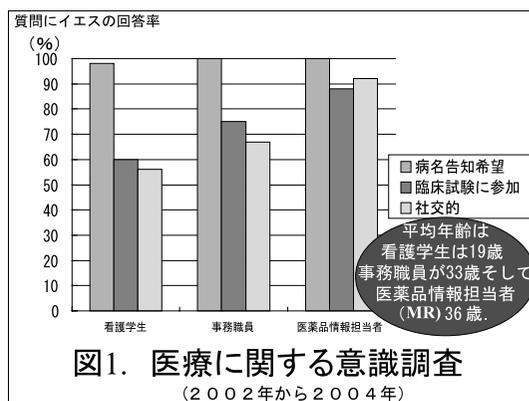
対象は1. 看護学生、平均年齢19歳、43名。2002年調査

2. 事務職員、平均年齢33歳、21名。2004年調査

3. 医薬品情報担当者 平均年齢36歳、25名。2002年調査です。

1. もし、あなたが白血病になったとして、病名の告知を
 - a. 希望する
 - b. 希望しない
2. 親が白血病と仮定して、主治医から本人への告知を
 - a. 希望する
 - b. 希望しない
3. インターネットを利用したことが
 - a. ある
 - b. ない
4. クローン人間をつくる事に(合法なら)
 - a. 賛成
 - b. 反対
5. 新薬の臨床試験への参加を勧められたら
 - a. 断る
 - b. 受ける
6. 骨髄バンクに登録している
 - a. はい
 - b. いいえ
7. 白血病の有名人を知っている
 - a. はい
 - b. いいえ
8. 死亡順位の第一位はがんである
 - a. はい
 - b. いいえ
9. 白血病と精巣がんは抗がん剤だけでも治癒する
 - a. はい
 - b. いいえ
10. 自分の性格はどちらかという社交的、前向き
 - a. はい
 - b. いいえ

結果：質問1、5、10の結果です。



質問1. 病名告知に関しては、白血病でも病名告知を希望する傾向がはっきりと読み取れます(98-100%)。情報提供は当然という認識が一般の方に根付いて来ています。

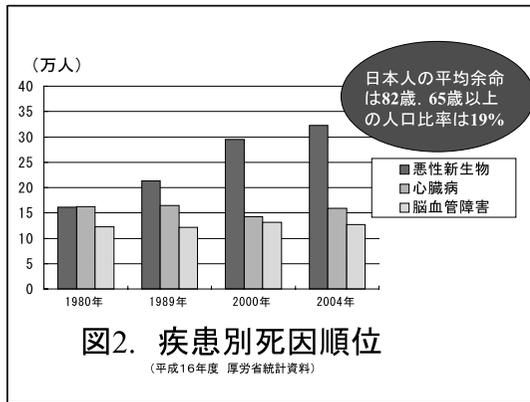
質問5. 臨床試験への参加(60,75,88%)については年齢が高い程または社交性(質問10.56,67,92%)のある方が高い傾向です。臨床試験そのものについての理解不足、啓発不足が大きな要因でしょうか？

質問10. は内向的、消極的な方が1.6倍程度、がんになりやすいと言う過去の疫学調査結果を意識したものです。

図1. から言えることは医薬品情報担当という職業的側面が質問1.5.10.における高いイエスの回答が見られた要素と考えています。がんの臨床では白血病であっても、希望を失わず常に positive 思考を持つように主治医は説明指導しています。不治の病という状況でもその中で、QOL (Quality of life : 生活の質) を高めるた

時の話題

めに、やりたいことややすませておきたい事などを考えてもらえれば、それは前向き思考と言えます。そういう時に芸能人で白血病となり、その後現場復帰された実例があるとお互いが勇気づけられます。質問7.ではこのことを尋ねました。看護学生80%、事務職員90%そして医薬品情報提供者96%でした。質問8.は図2に示します。悪性新生物が32.1万人で第1位です。



その他、興味ある結果としては質問2.があります。親子間の気持ちを質問してみました。主治医から本人(親)への告知を希望する子供の頻度は看護学生では89%、事務職員では52%そして医薬品情報提供者は48%でした。この後者の低い頻度は親に心配を与えたくないという日本人の親子観としての特徴でもあり、逆に、高い数字は伝えても良いとする若い人またはこれから、医療現場で働く人の考え方とも言えるのではないのでしょうか?主治医として気を付けるべきは、先ず、ご本人へ病状説明する事です。親族といえどもご本人から許可を取って、病名を告げる等の注意が大切です。2005年4月から施行の個人情報保護法の観点からは、もし、あなたが悪性の病気であった場合、知りたくないときはどうして欲しいかを診察前に尋ねる事が推奨されています。

質問3.については看護学生47%、事務職員100%、医薬品情報担当者100%でした。2002年当時の家庭でのインターネット普及率が50%を超えたので妥当な結果です。

質問4.のクローン人間については数年前の羊のドリーからの話題です。あの当時は賛成するのは数%だったと記憶しています。それが今では、看護学生10%、事務職員28%、医薬品情報提供者24%と高くなって来ています。もうすこし、経緯を見極める必要があります。

質問6.では今年、3月の骨髄バンクからのデータを紹介します。骨髄提供の意志のある登録者総数は全国で20万4710人、鹿児島県内の登録者は2260名、これは全国26位ですから県民の意識は平均的といえます。質問9.については次回解説致します。

さて、以下の写真(図3)はロンドンのいわゆる無料タブロイド紙です。医療が結果または治療成績を基に評価される時代になりそうです。しかし、基本は医師と患者との相互信頼の良い形を継続していく事だと考えています。



図3. ロンドンの無料タブロイド紙面。麻酔中の症例が心肺停止となり、死亡したとの記事。麻酔科の医師がおしゃべりして後ろを向いている間に起こった医療ミス。

【次回：急性白血病はなおりますか?】